

津山藩お抱え絵師

くわ が た けい さい

鍬形蕙齋の魅力を探る



えどひとめずびょうぶ

江戸一目図屏風（岡山県指定重要文化財） 縦176cm、横353cm 六曲一隻 津山郷土博物館蔵

文化6年（1809）、江戸の全景を詳細に描いた景観図で、隅田川東岸の上空から西方の地上を見下ろした鳥瞰図となっています。

画面中央に江戸城、左に江戸湾、下に隅田川を配置。江戸城の周囲には大名屋敷が並び、外堀の外には入り組んだ街路や蛇行する用水路に沿って、民家や社寺がびっしりと描かれています。また、浅草寺、向島、新吉原など著名な江戸の名所が250か所以上も描き込まれ、さらに、画面上方の遠景には秩父や丹沢の山々がかすむようにあらわされ、その中央には霊峰富士がひととき大きく描かれています。

当時の江戸は人口100万を超える世界でも指折りの大都市です。本図は西洋画の技法を駆使しながら、19世紀初頭の江戸の繁栄を描いた肉筆画として、近世景観図の傑作と評価されています。

今年には津山城築城400年。市では4月1日から来年5月5日までの400日間にわたり、さまざまな記念事業を開催します。

この記念事業の先駆けとして、津山郷土博物館では、3月20日から4月18日の間、江戸時代後期に活躍した津山藩のお抱え絵師、鍬形蕙齋の特別展を開催します。

鍬形蕙齋がどのような活躍をした絵師だったのか、ここで追ってみましょう。

浮世絵師・北尾政美の誕生

蕙齋（1764〜1824）は明和元年、町人の子として江戸に生まれました。10代半ばごろに浮世絵師・北尾重政に師事し、北尾政美と名乗り著名な戯作者山東京伝（北尾政演）や窪後満とともに、重政門下の三羽ガラスとして活躍しました。津山藩に出仕するまでの浮世絵師としての活躍は、黄表紙（江戸時代半ばごろから流行した読み物）の挿し絵が200部余に及んでいることから版本画家としての当時の人気を知ることができます。

蕙齋に訪れた転機

当時の江戸で人気、実力を極めていたであろうと推測される蕙齋ですが、大きな転機が訪れたのは寛政6年（1794）、蕙齋数え年で31歳のときです。なんと、この年に蕙齋は津山藩松平家のお抱え絵師に取り立てられたのです。

江戸時代、諸大名家の御用絵師は狩野派の門人とされており、当時の浮世絵師は決して社会的地位の高いものではありませんでした。人気があったとはいえ一介の町絵師であった蕙齋が、親藩津山藩のお抱え絵師となったのですから、大いに江戸市中の話題となったことでしょう。

津山景観図屏風

縦151cm、横365cm 六曲一双 個人蔵
これは、昨年5月に市内の個人宅から新たに発見されたものです。

右隻は画面中央に津山城を置き、その左右に城下町のような様子を描いています。下の吉井川には今津屋橋が描かれ、画面上半には黒沢山や天狗寺山などを始め、中国山地の山々があらわされています。

左隻は二宮高野神社を中心に、西松原の松並木や院庄などを描いています。下の吉井川には広瀬橋が描かれ、画面上半には山々があらわされており、雪化粧の泉山がひときわ印象的です。

蕙斎によって描かれた津山の景観図として極めて価値の高い作品といえます。



右隻



左隻

桜花遊宴図 (太田記念美術館提供)



鋏形蕙斎の誕生

寛政6年、津山藩に出仕したのち画号を蕙斎としました。寛政9年(1797)には、狩野派に入門して伝統的な画法の勉強もし、姓を鋏形、号を紹真と改めました。津山藩お抱え絵師

となつてからも、蕙斎はほとんど江戸に居住し、津山へ来たのは藩主の参勤交代に従つて、文化7年(1810)から8年にかけての1年足らず津山に滞在したときのみです。このときは、前年に焼失した津山城本丸御殿の襖絵などの制作を命ぜられていました。

蕙斎は藩命により絵を描くかたわら、江戸各地の名所風景や日常生活における人物描写などの多くの作品を残しました。

「北斎嫌いの蕙斎好き」

蕙斎と同時代に活躍した著名な浮世絵師に、葛飾北斎(1760-1849)がいます。世界的に知られる北斎の代表作「北斎漫画」は、実は蕙斎の「略画式」の影響を受けているといわれています。2人はほぼ同時代に活躍した絵師ですが、その作風は対象的です。

北斎の絵が「冨嶽三十六景」に代表されるように、想像性豊かで力強く躍動的であるのに対し、蕙斎の作風の特徴は、軽妙洒脱な気の利いた感受性にあるといわれています。強烈な印象を与える力強い北斎に対し、洗練された軽妙な印象を与える都会的な蕙斎。北斎が地方の大家の人気を博したのに対し、蕙斎はおもに都会人に評価されました。「北斎嫌いの蕙斎好き」という言葉があります。これは蕙斎に対する江戸っ子の親近性をあらわしたものでしょう。

蕙斎の魅力を体感してください

蕙斎は、とくに略画式の作品と名所図に注目すべきところがありますが、地味な作品が多いためか、残念ながら一般にはあまり知られていません。

そこで、市では津山城築城400年記念事業の一環として、東京の太田記念美術館と協力し鋏形蕙斎展を開催します。「桜花遊宴図(太田記念美術館蔵)」など津山ではほとんど見ることができない蕙斎の約50点の作品が展示されます。この機会に、全国に向けて蕙斎の業績を紹介し、そして、市民のみなさんにもぜひ蕙斎の作品に間近に触れて、その魅力を体感していただきたいと思ひます。

津山城築城400年記念特別展

鋏形蕙斎



とき 3月20日(祝)〜4月18日(日)

月曜日および3月23日(火)は休館日

ところ 津山郷土博物館

開館時間 午前9時〜午後5時

入館料 一般210円、高校生・大学生150円

中学生以下無料

問い合わせ先 津山郷土博物館 4567へ

知る人ぞ知る郷土津山の記念品

津山郷土博物館では、蕙斎の描いた「江戸一目図屏風」の縮小版複製の販売をしています。

縦37・5センチメートル、横73センチメートル、六曲一隻、価格1万円です。ご希望の場合は、津山郷土博物館 4567へご連絡。